

特定外来生物オオカワヂシャ、ナガエツルノゲイトウ調査報告

手賀沼にマシジミとガシャモクを復活させる会 竹中真里子

手賀沼では2011年12月に特定外来生物オオカワヂシャが初めて確認され、2012年度に行った調査では、大津川で供給源と思われる所が確認された。まだ、移入の初期段階にあることから早急に駆除を検討しながらさらに調査を継続することになった。

【2013年度調査概要】

今年度は、船上調査1回と主に大津川調査を17回行った。船上調査では、上沼側でナガエツルノゲイトウが沼岸を被いつくすほどの繁茂状況であった。大津川ではオオカワヂシャの生息状況は2012年度とは大きく異なり、川岸の砂堆積地が大幅に減少し、砂堆積地があってもオオカワヂシャは非常に少なかった。これは2013年10月の増水によって砂地が流されたことによると思われる。

しかし、新たに供給源となっていると思われる支流が確認され、ここには沈水性の株があった。美しい手賀沼を愛する市民の連合会では、環境省の特定外来生物防除認定を申請中であり、調査と並行して駆除を実施した。今後開花の時期に、取りこぼしの株を駆除する必要がある。

【ボートによる沼内の調査】7月26日実施

大津川河口より上流側沼岸のほとんどでナガエツルノゲイトウが繁茂している。昨年はヨシの間に侵入が見られた程度であったところが大群落となっている。特に、北千葉導水路第2 機場の浄化用水注入口での繁茂状況は脅威的なものであった。また、昨年「アサザ」「ヒシ」が確認された場所にもナガエツルノゲイトウが繁茂しており、他の水生植物を駆逐していることがわかった。



【大津川オオカワヂシャ、ナガエツルノゲイトウ調査】

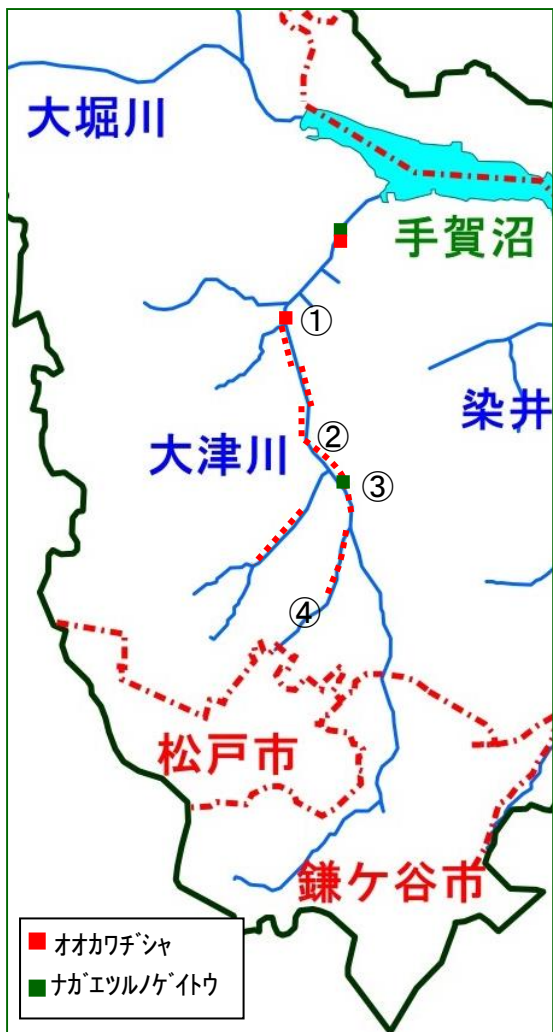
4～5月本流宮根橋下流側や逆井方面支流では、草丈60cm以上となっていた。(多数の花穂、多数の種子)



根張りは
浅い。



【大津川の分布調査】 10月～3月



①砂地にオオカワヂシャが群生していた。今年はこのような砂地が非常に少ない。
●空間放射線量(地上1m)0.389 μ Sv/h、他は0.1～0.2 μ Sv/h
●オオカワヂシャの放射線量は11.82Bq/Kg

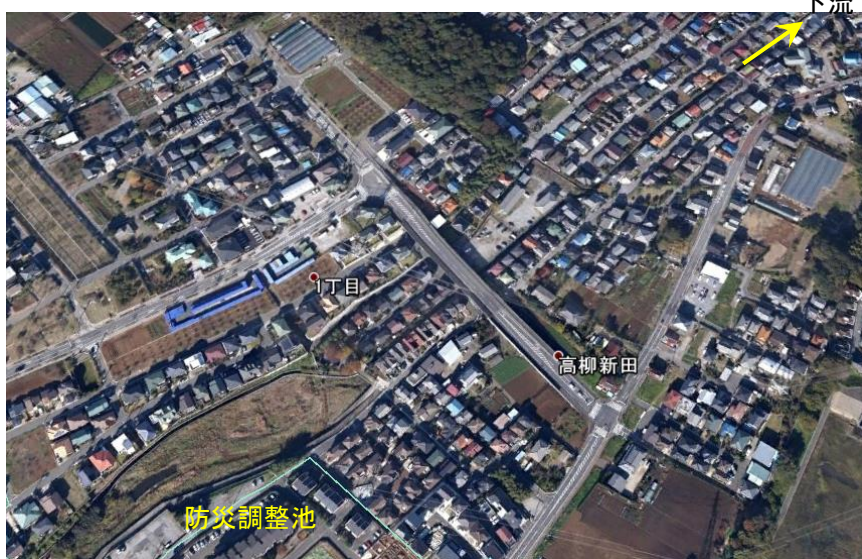


②権現橋より上流は河川幅が2m程度と狭くなり、川の砂地はほとんどない。兩岸の崖にオオカワヂシャが点在している。特に左岸に多い。



③宮下橋下流右岸のナガエツルノゲイトウ(直径5m)は、大津川で最上流にあり、拡散の影響も大きいことから、柏土木事務所に伝え駆除することとなった。

④芦川橋から松戸市六高台方面支流では、水路の側壁に点在していた。側壁の土質はやや粘土質で、砂地が繁殖適地とは限らないことが解った。さらに上流では、沈水性の株のみがあった(10株以上)。コンクリート三面張りの水路にも沈水性の株があったため、上流に供給源があるものと思われた。コンクリート三面張りの水路は1km程続き、その先は松戸市クリーンセンターのある防災調整池に続いている。その池は立ち入り禁止のため確認することはできなかった。



沈水性の株

